

社会福祉法人「以和貴会」かわらばん

ぽこ・あ・ぽこ・・・「のんびりと」という意味
お茶でも飲みながら「のんびりと」お楽しみ下さい。



「社会福祉法人」

理事長 下村 卓司

新年度の方針を色々考えている所ですが、先行き不透明な障がい福祉制度（総合福祉法）の中
ではこれと言ったものが見え辛くなります。（昨年の新年も同じような感覚でした）

しかし、障害福祉改革推進会議の進み具合を見ると国の考えている事が見えてきます。推
進会議は、行政お得意の世論対策であり、民意を反映した法律である事の裏付け（証拠）作りで
は無いかと勘繰らざる得ません。国が平成18年に突然発表したグランドデザインが国の方向性
であり、鳩山内閣が立ち上げた新たな公共円卓会議で示された福祉事業法人化が直近の目標であ
る事は明らかだと思われまます。では、どうなるのかと言うと社会福祉法人を悪者に仕立て上げ、
民間企業やNPO法人が福祉の担い手になって貰うという構図です。確かにその方法も有りだと
思いますし、とんでもない社会福祉法人が存在する事も事実ですが、その多くは、私財を提供し、
厳しい審査を通って国に認可して貰い、国や県の厳しい監査を受け、自由を奪われた形で少ない
報酬単価の中ぎりぎりの経営をしている法人ばかりです。補助金という形で税を投入され、各種
税金も免除されている訳ですから多くの法人は、少ない報酬単価でも何とか福祉を必要とする
方々のため厳しい労働条件をもとめせず頑張っている訳です。本来国がすべき福祉サービスを
委託されて頑張ってきた歴史を反古にして、民間に任せられた方が金も掛らないし、自由な発想で経
営をして行くだろうとの判断だと思いますが、「ちよつと待つてよ。自由を監査という形で奪つ
ておいて、今さらそれはしないでしょ。」と思いませんか？

既得権は良くない、変わらなければならぬ部分もある事は十分わかっていますし、変わらう
としている法人が増えてきています。それに対し国や国会議員が持っている既得権はそのまま
で、我々のように行政の言いなりに頑張ってきた弱者に押し付けてくるこの国のやり方は絶対許
せないと思います。

施設運営において多くの課題があります。皆様方からのご意見等をいただき、その声で国を動
かすことができるようがんばっていきましょ！

「あなたにとって福祉とは何なのか」、20年以上前、大学の社会福祉学特講という講義で阿部志郎先生が学生に問いかけた言葉で、私の頭から消えることなく、ずっと残っている。私にとって福祉とは何なのか。

福祉という言葉の由来を調べると、漢字の偏「示」は、象形文字で神への捧げ物を載せる台を表し、転じて神を表わすようになったとのこと。このことから福祉とは豊に恵まれ、身も心も神と共にある（ような）幸せな状態を表しているといえる。そのような背景もあり、福祉という言葉の辞書をひくと、「幸福」とある場合が多いようである。では誰の「幸福」なのであろうか。



福祉に関係した制度はこの15年で大きく変化した。よく使われる表現を用いれば「措置から契約へ」シフトし、与えられる福祉制度から利用する福祉制度へと変わった。また、法律そのものに「自立」という言葉が組み込まれた障害者自立支援法も施行され、「選択」「契約」「自立」の構図が制度上は確立した。だが、制度から現場に目を移したとき、そこに「選択」はあるのだろうか。

海外ではDignity of risk という福祉専門職が振り返るための箇条書きがある。これは和訳すれば「リスクを負う尊厳」ということになろうかと思うが、この視点こそが、今の福祉専門職が再考せねばならないことであると私は考えている。いくつかをひろって紹介する。

What if you never got to make a mistake?

もし、あなたが決して間違いを許されなかったらどう思いますか？

What if your money was always kept in an envelope where you couldn't get it?

もし、あなたのお金が封筒に入れて手の届かない場所にいつも置かれていたとしたらどう思いますか？

What if you worked and got paid \$.46 an hour?

あなたが働いて、1時間\$0.46支払われたならば、どう思いますか？（日本の場合、あなたが働いて1か月1万6千円の給与だったらどう思いますか？）

その他、10以上の問いかけがあるのだが、福祉専門職は現場に追われていて、この問題「失敗することも彼らの権利であるということ」に気づくことができない。

テミルプロジェクト(有名パティシエと人気絵本作家による授産施設改革プロジェクト)を始めてから、これまで様々な福祉以外の世界の方にご協力いただき、授産施設を一般社会からみてノーマルな存在にしようとやってきたが、その過程の中で気づいたことがある。それは「福祉の外には意外に差別・区別はなく、フラットである」ということである。福祉に関係のない方々とも授産施設の問題について共有することができ、その問題を解決するべく力を合わせていただけなのである。

他方、福祉はこれまでノーマライゼーション、平等、対等、さまざまな言葉を用いて、健常者と障害者の壁をなくそうとしてきた。しかしその壁は本当に存在するのであろうか。その壁は福祉側からしか見えていないのではないかと私は思うのである。今こそ福祉専門職こそが一步外に踏み出す必要があるのではないか。

私にとって福祉とは何か。今もなお、答えは出ていない。しかし変えなければならない何かであり、壁の向こうに一步一步前に向かって歩いていくことで見えてくると信じている。

私はNPO法人Nネットの会員で市民オンブズマンです。

オンブズマンと聞くと、なんだか怖い人のように感じるかもしれませんが、私たち「施設オンブズマン」の活動は告発することではなく、入所者の方たちと施設との橋渡しをすることです。施設で暮らす生活は団体生活ですが、入所者の方一人ひとりにはそれぞれ思いがあり、生活しにくいと考えているかもしれません。施設の職員さんたちが熱心に介護されているなか、本人たちはお世話になっているからという思いがあり、なかなか言い出しにくいこともあるのではないかと思います。施設での日々の生活で、こんなことで困っている、こんな風であつたらいいのになあという一人ひとりの思いを探して訪問しています。



オンブズマンとしてゆらくの里を訪れるようになって一年が経ちました。以前は自転車で海外を走り旅行していました。ヨーロッパ、アメリカやアジア、アフリカを走りました。訪問していたら、時々思い出します。いろんな国にそれぞれ魅力的な文化があります。特に魅力的だと感じるのは、アジアやアフリカの暖かい雰囲気です。ヨーロッパなどに比べて治安の良くないところではありますが、ここには人が住んでいるという生命力、熱気、温かみを感じます。それも都会よりも田舎のほうで感じます。決して楽な生活ではないだろうけど、路上でのんびりしている人たちがいるとなぜかほっとします。住宅地で人が見えないというのはさびしい風景です。

給料を得るために住宅地から会社へ出かけ、住宅地が空っぽになってしまったような気がしました。そんな中で考えたのは、給料を得る生活がすべてではないということです。

今施設にいる人たちは、経済活動にはなじめない生活をしている人たちだと思います。そして、その人たちを受け入れて支えているのが、現在の入所施設だと考えています。脱施設という動きがありますが、日本の社会が高齢者や障害者の方たちを町の中に受け入れて生活する環境を持っていれば、町の中で生活できる可能性も出てくるでしょう。昼日中、誰かが街角でのんびりできる世の中になれば、すべての人がもっと生活しやすい社会になると思います。今の日本は、たくさんの人が息苦しい生活を送らざるを得ない状況ではないでしょうか。施設オンブズマンは地道な活動ではありますが、少しでも生活しやすくなる社会を目指し、活動を続けていきたいと思っています。

これからもゆらくの里の入所者の方たち、職員さんたちを応援していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



香芝ふれあいフェスタ

11月7日

今年は小雨の中スタートしましたが、次第に天気も回復し大盛況のうちに終わることができました。

「今人」では、毎年販売という形態で参加しており、主にイベント収益は、社員さん（利用者さん）の年1回のボーナスの原資となるため、スタッフも社員さんもいつも以上の頑張りです。前年は新型インフルエンザの流行で開催されなかったため、今回は特に気持ちが入っていました。今一度原点に戻り、パン販売をメインにクッキー・ケーキ・綿菓子・手芸品の販売を行い、結果、過去最大の売り上げを記録し、大成功をおさめることができました。

法人チャリティーコンペ

11月11日

晴天のもと宇陀市にあります「ムロウ36 ムロウコース」にて第20回のチャリティーコンペが開催されました。100名を越える参加をいただき、チャリティー募金にもご協力いただきました。法人運営に役立てさせていただきます。たいへんありがとうございました。平成23年も11月17日（木）に予定しております。ご参加いただけますようよろしくお願いします。



第38回奈良県障害者作品展

12月4日～9日

日頃より、創作活動に取り組んでいる陶芸班・アート班を中心に、絵画作品や陶芸、手芸などを出展いたしました。その中で、みごと2名の作品が優秀賞に輝きました。

作品名「僕らの地球、自然がいっぱい」（左上）では、平和な地球、生物と人をテーマに描かれました。マーカーペンやアクリル絵の具を使い、特に細かい部分は、爪楊枝の先に絵具をつけ表現されています。

作品名「樹齢2000年」（右下）では、筒状に丸められた新聞紙を段ボールに貼り付け、大きな樹木を表現されていました。

今後も、日々の活動で生み出される数々の作品たちを、地域の方やその他にも、大勢の皆様に見て頂ける様、発表して参ります。どうぞご期待ください。



クリスマス会 12月25日



第9回社会福祉法人以和貴会クリスマスパーティが、ふたがみ文化センターにて開催されました。

クリスマス会は、ゆらくの里開所当初より開催してきましたが、「私たちのことを知って頂き、共に生きていける」よう地域に出て開催するようになりました。

地域やご家族の方々に、クリスマス会を通して日々の生活・活動などを理解して頂けるように、市民ギャラリーでの展示（写真・作品など）を開き、多くの方々に見て頂けたことを大変うれしく思っております。また、パン・クッキーなどの販売も大好評でした。

特に今年は、以和貴会のテーマ曲「和をもって」が完成しました。地域サービスを利用されている方の詩をもとに、スタッフが試行錯誤して、法人名の由来となった「和を以って、貴きとなす」を歌に表現しました。完成された歌をクリスマスパーティに発表できたことに感謝し、今後も歌い続け、育てていきたいと考えています。

オープニングは、香芝中学校吹奏楽部のみなさんの演奏で始まり、児童課によるステージ発表も初の試みとなりました。若いエネルギー溢れる舞台発表や、家族会によるパワフル満載な出し物が盛り沢山で、会場いっぱいの笑いと楽しい雰囲気の中、事故もなく終えることができたことに感謝しております。

今後も地域の輪が広がって、共に生き、育ち合えるように活動していきたいと思えます。



新年会 1月7日

年が明けて最初の行事「新年会」。餅をつく勇ましい掛け声とともに始まりました。利用者様も杵を振るって参加されました。民生委員やボランティアの方々と一緒にお鍋を堪能した後は、初詣や書初め、カラオケ大会と映画『ドラえもん』上映会で、新年の一日を楽しんでおられました。今年もみんなにとって良い一年になりますように・・・

「ユーハイム」安藤マイスター製菓指導！

平成 23 年 1 月 17 日、当法人製菓の製造販売をしております「sweet factory Monstera」にて、洋菓子製造販売最大手「ユーハイム」の安藤マイスター様に製菓指導のため来ていただきました。テミルプロジェクト参加法人として、安藤マイスター様からレシピをいただき、上達するよう試作品づくりの毎日です。初夏に一般販売を開始予定です。本当に良いものができておりますので、お買い求めいただき、ご賞味いただければと思います。



《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を有効に活用させていただき、多くの利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

宮岡徹、森田信行、高木清治、宮地恵美子、西風美智子、原田賢三、松本逸美、大上供栄、平尾英治、平岡靖介、牧村元嗣、井上哲次、三島茂子、谷口融正、川北司朗、宮崎淑子、沖野博、樋田稔枝、堀井信裕、正木護、西川豊子、榎木勇、山下親秀、久世博子、井口カヨ子、寺本四郎、西田清、大場利子、片上芳子

《地域事業》

堀謙輔、高田泉、永田恵美子、伊藤素子、津田勝俊、戌亥幸秀、中久保公彦、井伊政光、滝井良次、三谷光永、平田義美

《業者ほか》

明治牛乳関屋販売所、テラセ訪問美容、(株)老松園、(株)井戸田蒲団店、(株)SNC、船木燃料店、岡村プロテックス(株)、大良水産(株)、(株)原田フーズ、マツムラ社労士事務所、下村善允、杉山龍平、生け花クラブ

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を大募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込みを是非お願い申し上げます。

《編集後記》

「ぽこあぽこ」再開第二号発刊に、たどり着くことができました。「継続は力なり！」と言われていますが、本当に容易なことではありません。日々の努力を怠らず、今後も継続できるよう頑張っていきます。各行事、多くのボランティア様に支えられ実施することができました。今後どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

発行：社会福祉法人 以和貴会
 住所：〒639-0261
 奈良県香芝市尼寺616番地
 編集責任者：理事長 下村 卓司
 Mail：office@yuraku.or.jp
 発行：平成 23 年 3 月